

第4回北秋田市総合戦略会議 議事録

日時：平成27年10月5日 14時00分～15時30分

場所：北秋田市役所 3階

1. 座長挨拶

座長：皆様こんにちは。6月24日が第1回でしたが、夏至の頃でしたのでとても暑かったと思います。もう寒くなりまして、今朝等は布団からなかなか出られないような、あつという間に10月になってしまいました。稲刈りのほうも終わっておりますので、今日は最終ということで、実りの多い収穫の時間にしたいと思います。

今回は前回皆様から頂きました意見から当局が検討したもの、それからパブリックコメントに寄せられたものから当局が検討してきたものを報告して、それを踏まえながら最終議論を含めてまとめていきたいと思います。

時間は4時までですが、毎回時間一杯まで議論を頂いておりますが、もうすっきりしたということがあれば3時半でも終わって良いと思っていますので、念頭におきながらよろしくお願い致します。

また、同時並行して進めている総合計画については会議を終了しまして、今月中に市長に答申することとなっております。連動しておりますが、総合戦略は少し後を追いかける形となりますが、今日は1日頑張っていきたいと思います。それでは、今日はよろしくお願い致します。

2. 事務局説明

座長：次第にそって、まずは最初に事務局から説明をお願い致します。前回からの意見の検討結果、8月24日～9月4日までのパブリックコメントについての検討結果について事務局から説明をよろしくお願い致します。

<事務局より資料1、2、4の説明>

座長：まずは委員の意見に対する意見の検討結果について、ご意見を頂きたいと思いますが、いかがでしょうか。

福原委員：資料1のナンバー45の検討結果について。地域住民の共通認識が無いと難しいという回答となっています。これについては1世帯でも反対があると実行しにくいと思いますので、地区の自治会長などに話を持っていってもらって、市が集約し、対応を考えると良いのではないのでしょうか。

座長：他の委員はいかがでしょうか。概ね追加修正、協議、検討という文言で締めくくって

おります。ご自身以外の検討結果についても、ご意見などあればお願い致します。

福森委員：検討結果を読ませて頂き、自分の質問内容について掘り下げて検討できればと思います。資料1のNo43のスポーツについては合宿誘致が厳しいという回答ですが、他にはない施設ということであれば、青色のグランド・陸上競技場があります。これは県内では2か所程度しかないと思います。隣にプールもあって体育館もすぐ近くにあり、このように適した環境は他に無いと思うので、マイナスに捉えずに積極的にPRしてはどうかと感じています。

また、No41の子ども会について、自治活動なので積極的にはという書き方をしていますが、なくなるかどうかの瀬戸際にあると思います。今は市として積極的に入っていく必要がある、そのような時期になっていると思います。

また、No42の防災無線については、新たな情報伝達手段とありますが、具体的にはどういうことを考えているのでしょうか。検討していきますとしかないので、具体案に聞いてみたいと思います。

座長：今のご意見にあった、防災無線で検討しているものについて事務局から説明があればお願い致します。

事務局：新たな防災関係の伝達方法についてですが、今考えておりますのはFM放送を利用した防災ラジオを考えております。FM放送を送信すると、強制的に電源が入る、又は他局を聞いていても変更されるようなものです。現在は県内の放送局を想定していますが、コミュニティFMとなると核となって進める個人・又は事業者が必要になりますので、今活動されている方はいるとは伺っていますが、まだ具体的に検討を進めている訳ではないので、このような表現になっているということです。このようなことから、検討してはいますが、市全体に行きわたるかについては大分時間がかかるように思います。

座長：6月にも総合戦略について話しした記憶がありますが、あとは無い、次は無いということで進めないといけないと思いますので、福森委員の意見はごもっともだと思います。

コミュニティFMは県内で6局の先行事例がありますので、市でもこれを参考に進めるということかと思います。その意味ではとても良い回答を得たと思います。

他にございませんか？FMについての話もでしたので、パブリックコメントも合わせてお願い致します。

津谷委員：資料1のNo41ですが、自治会のことについて記載しています。私の職場のところは自治会ですが、自宅の方は昔からの町内会という、一つの自治会になりたくない小さい町内会がまだ残っています。もし考え違いでなければ、大きな自治会はそれぞれ自治区に自治会を置くという行政主導で行われてきたという風に聞こえています。このような大きい自治会では、100何十件も加入世帯があり、それぞれに班がありますが、色々な行事の回覧は回ってくるものの、ほとんど参加者がいなくて、せいぜい10

人程度の参加と伺っています。一方で、我々の自宅の方は小さな会なので、それぞれの人が役割を果たさないと会が成り立たない状況にあります。そう考えると、大きくなってしまふとただあるだけになるのではと思います。これを見ますと、どうしても小さすぎてどうにもならないところはしょうがないことはあるかと思いますが、大きくても仕方ないのではという気もしています。

小塚委員：自治会についてですが、検討結果としては再編に必要な環境整備については支援していくと記載がありますが、具体的にはどのように考えるのでしょうか。実際にこのまちで自治会・町内会に何も入っていない、回覧板も回ってこない状況の世帯もあります。ここを真剣に考えて、どこのお家にも回覧板がまわってくるようになる取組をして頂くことを切に願います。

座長：隙間があるということだと思います。他にご意見があればお願い致します。

小塚委員：総合計画についてですが、2－1 地域コミュニティの推進・地域自治の体制確立について、見ていると、取組方針（2）に「自主防災組織の立ち上げ・強化や高齢者・障がい者等への地域組織支援の立ち上げ」と記載されています。ちょうど資料2のパブリックコメントの No 8 に、高齢者福祉の充実として認知症対策が記載されています。認知症が進んできて、昨日もありましたが、学校への働きかけや認知症サポーターの養成研修などを実施していますが、もっと地域住民の意識向上に向けて、自治会の取組、地域ネットワークの充実も大きく取り上げて頂き、今後記載が必要なのではないかと思います。

座長：認知症は現在広まっているので、何かしら記載があると良いのではというご意見でしょうか。

小塚委員：地域活動の推進の施策の中に、この一言は大きい物事と捉えて、加えても良いのではないのでしょうか。昨日も交流センターで研修がありましたが、満杯になるほど人が集まりました。そのような状況なので、地域活動の推進に記載を頂くような背景があるのではと思いました。

座長：では、続いて総合戦略の市民提言版というものがありますので、事務局より説明を頂きたいと思います。

<事務局より資料7の説明>

座長：市民提言版という位置づけについてご理解頂けたものと思います。

今日の方でのご意見も追加する予定ですので、遠慮なくご意見頂ければと思います。

福原委員：感想ですが、市民提言版というものは非常に良いと思います。今すぐ実施できない考えが、分類して整理すると貴重なアイデア等ユニークなものとして、この会議の集大成なものだと思います。今後検討する際の材料になると思います。

座長：事務局の方でもよく整理頂いたと思います。その他いかがでしょうか。

福森委員：今まで出てこなかった歴史・文化について。遺跡について記載がありますが、これ以外にもマタギや阿仁の鉱山文化などもあると思います。これは観光メニューとして持っている武器になると思います。また、観光という面だけではなく、教育の生涯学習としての研究対象にもなり、体系付けして、市に來た方に学ぶ環境が整うことが良いのではと思いますので、今後検討して頂きたいと思います。

奥田委員：歴史文化について。小さいと言えば小さいことですが、森吉町で笑う岩偶が出土されています。最近忘れられてどの資料を見ても記載されていないので、これも忘れずに入れて頂きたい。発掘された当時は英字新聞まで掲載されて騒がれた岩偶ですので、是非忘れずに入れて頂きたいと思います。

また、行政の方で色々と考えられて資料を作成されて、ご苦労はわかりますが、この会議が終わった後に素案がどこまで実行されて、どれが実行されてどれが出来なかったのか。そうでなければ色々話し合っても絵に描いた餅になってしまいますし、これを見ても願っていますが、進行中・計画中とあるので、どこまで実行性があるのかどうか。実際に行政としてもお金がかかることですから、現実的に無理だということも多々あるのではないのでしょうか。後々どこまでできたというのか、この報告も欲しいと思います。

また、今担当している方は一生懸命であると思いますが、行政というのは3年程度で部署も変わると思います。その際に引き継がれるのは書類だけになると思います。今の方々の情熱などは伝わらないのではと思います。ですから、トップやその右腕になる方は計画が終了するまでは人が変わらないようお願いしたい。情熱をもってやっていただいているが、人が変わると途切れてしまいますので、その辺も対応頂きたいと思います。

座長：言いにくい点についても触れて頂き、有難うございます。計画に組み込まれた重要なことですが、評価の仕組みについて事務局より触れて頂ければと思います。

事務局：総合戦略については年度別に目標を持っております。これについては全ての項目について毎年検証致します。結果としてできているもの、出来ていないものもあると思いますが、それも含めて国から検証するようにとも言われています。これまでの計画がどうしても検証の部分についてはおざなりであったという反省も踏まえまして、新しい計画からは実態を報告した上で、今後組織される検証の委員の方々と確認・ご審議頂くように考えています。

座長：議会の方でもチェック機能がありますが、関わった我々委員もずっと施策について確認をするようにしていきたいと思います。他にはいかがでしょうか。

奥田委員：特産品の売り込みについて。実家が東京ですが、実家に行った際に近くのスーパーに行きますが、秋田県人として山菜があると目が行きます。その山菜を買ってみますと、阿仁町から出ているものが多かったです。その意味で阿仁町は東京のスーパーに売り込んでいると感じました。この点についてはルートやノウハウがあると思いますの

で、そこを利用して行けると良いと思います。

大穂委員：その点については知りませんでした。例えば大阿仁地区では、今は畑で山菜を育てていたり、きのこを原木栽培されている方は多いですが、東京に阿仁の名前で出ているというのは知りませんでしたので、そのルートを私は知りません。農協なのかどうか。もしルートやノウハウがあるとすればそれは凄いことです。今度地元で聞いてみたいと思います。

私が感じているのは、阿仁や北秋田を売り出すことです。今シーズンのなめこでも、1キロ千円でどこかの業者が買っていったりします。阿仁というブランドをもっと出すべきだと思います。山菜などの情報を教えて頂きたいし、共有しなければいけません。つまり、一部の人はやっているかもしれないが、どこがやっているのかわからないとどうやって増やす話も出来ないのではないかと思います。

座長：戦略的に売らないといけないと思います。

奥田委員：奨励委員を務めたときに漬物コンクールを行い、その1位・2位を取った方にはシールを差し上げて、道の駅などで出して付加価値がつくようにしました。買う方も多分美味しいだろうと信用がつくので何年も実施していましたが、もう奨励委員をやめてしまったので、今も続いているかはわかりません。ただ、そうやって秋田の漬物は、世界に通じる日本のサラダだと思います。外国は生野菜に塩や胡椒などのドレッシングをつけますが、日本の漬物は先にそれをやっている訳で、世界に通用するものだと思います。おいしい漬物をブランド化して、立派なブランドとして通ると思うので、秋田の漬物として出してもよいのではと思います。

座長：どこかの県ですと、漬物の缶詰は外国人に大人気というのは聞いたことがあります。

県南の横手のいぶりがっこも賞を付けています。やはり民間と行政と一緒にやってもらないと認知度も上がっていかないのではないのでしょうか。これもしっかりと記録して頂きたいと思います。

小塚委員：いぶりがっこは袋に入れると臭いがするので、缶詰はおいしくて良いと思います。また、市民提言版について。文字についてですが、5ページの◎の3つめには子供とありますが、子どもの表記もありますので、漢字とひらがなで統一した方が良いのではないのでしょうか。

大穂委員：先ほどの山菜についてですが、思い出しました。大館北秋田森林組合の工場が阿仁にあるので、そこでは加工してパックで出しているのですが、おそらくそこではないかと思います。そこは前から取り組まれています。

座長：それでは、全体を通してざっくりとみて頂ければと思います。5分ほどざっと見て頂いて、コメント頂きたいと思います。

奥田委員：基本目標2の移住定住について。以前にターゲットとして範囲を狭めてというお話をしました。その中に同性愛者の方というお話をしましたが、同じ人間で愛する人が

違うということだと思いますが、地域の方々は拒否反応を示すかと思います。そこで、同じ対象を限定することとしても、芸術家の人を呼んでも良いのではないのでしょうか。芸術村のようなものをつくと良いと思います。普通の移住者ではこちらで仕事を用意しないといけませんが、芸術家は自分で仕事を持ってきます。そこで生産があり、人が集まってきます。今鷹巣の綴子で芸術家の方が住んでいると伺いました。そちらは綴子の観光資源もありますし、その周辺に芸術村みたいなものを作って、生産して販売して人を呼び込むということも移住者の設定について良いのではないかと思いました。

小塚委員：市民提案版の４ページの少子化対策について。県の方で、確か子育て環境において住宅について支援制度があると思いますので、それを織り込んで良いのではないのでしょうか。

確か県で子育て世帯に対する住宅支援制度があると思います。県の方であるのであれば市にも記載があっても良いのではと思います。この点については少子化対策に含まれて良いのではと思います。

座長：私も遠慮せずに２つほど。一つ目が資料１のNo４６番。地域包括ケアシステムの構築を進めるとありますが、早急とは言いませんが速やかにという期限を意識して欲しいと思います。

また、資料４の人口ビジョンの１８ページ。ポイントの２つめに「学校等の教育関連施設を統廃合していくことが避けられない」と記載がありますが、これを検討するにあたっては人口減との関連を慎重に見極める必要があるという文言を記載頂きたいと思います。これまで人口が増えてきた時の統廃合とは全く意味合いが異なります。統廃合になることで人口減を更に進めてしまう懸念もありますので、慎重に見極める必要があるということをお願いしたい。

福原委員：全体的な意見、感想となりますが、人口ビジョンの資料を見ますと、今後高齢者が増えていき人口構成が変わるとあります。総合計画の方には財政が厳しくなると記載されています。地方交付税も減っていきませんが、医療費や介護費は増大していて、２５年後に多くの市町村が存続の危機にあるとの指摘もあるので、将来的には予算の使い方を根本的に見直していくことが必要になるのではないのでしょうか。

座長：一回目の議論の時に、どういうまちを目指すかという話の中で、住みやすいというキーワードがあったと思います。どういうまちにするか、これが見えれば良いなと思っております。人口ビジョンのまとめの最後には、暮らしやすい地域づくりの施策ということがありますので、その辺を認識できればと思います。

奥田委員：みんなが住みやすいのはどういうまちかということだと思います。箱物があって立派な街並みだということよりも、地域の方と手を取り合って、先ほどお話に出たように大きい自治会ではなく小さい自治会の中で、小さいからこそ自分も何かやらなければいけないということが大事なのだと思います。一番最初の会議では６割・７割の方が幸せと感じているまちで、活性化のために何かしようというときに、本当に住民と市民

が協働できるかと考えてみました。既に幸せと考えている人が多いのであれば、さほど行政がこうしようとやっても、ダメじゃないかと感じました。このようなことから以前は市街地でお年寄りが歩いていけるまちが良いとは思ってはいたが、今までの議論などを通じてそういうものではないと感じました。

というのも、友達に聞いたら、やはり幸せだと答えたからです。小さい自治会の中で役割があって、協力の中で人と人とのつながりを感じて、地域で役に立っているという認識で、別に不満がないというお話でした。そこで私も気が付いて、まちを大きく変えることよりも住みやすい、楽しいまちはそういうことだと感じました。結局、皆が健康であれば、衣食住が盛んになる。お年寄りが病気になれば医療費もかかりますが、元気で楽しく生きていけば、欲求も出てくる。そこで住んでいる人が健康で楽しく、となると福祉関係に力を入れる方がよいのではという思いに至りました。最初の頃とは考えが異なったので訂正いたします。

座長：限界集落と呼ばれる地域の床屋さんにお話を聞いてみたのですが、人が来なくなっているのではと聞いたところ、人数は同じだということでした。来る人は少なくなったけれども、自宅にいて散髪する人、老人ホーム等で実施する人が増えて、結果的に人数は増えていないが、そのようなことが地域でのサービスとして当たり前になっていて、なるほどと感心したことがありました。そこで住んでいる人が自分らしく暮らしているということがアンケートにも出ているように感じました。

他に感想でも良いのでいかがでしょうか。

小塚委員：過去にもありましたが、歩いて暮らせるまちづくりという言葉がありました。小さい訳ではないが、それぞれの地域で暮らせるまちづくりの体制・システムがあれば良いのではと思いました。昨日のように認知症の関心を持っている人が多く、高齢化率がもう40%で、認知症が2000人もいるそうです。地域コミュニティがしっかりしていないといけません。自治会の方々が一つの地域として包括支援センターや社協に頼らなくても一緒に連携した組織作りの方向性を持ってないといけないのではないのでしょうか。認知症のことも含めた形で地域コミュニティ施策に歩いて暮らせる街づくりについて記載頂けると良いなと思います。そうすると高齢者も子供も一緒に声を掛け合えるようになるのではないのでしょうか。少子化が進んでいて、保育園については阿仁部では定員割れしていますが、鷹巣周辺は定員オーバーでもあります。高齢者も含めて子どもから高齢者まで安心して歩いて暮らせるまちづくりがあればとても楽しいのではと感じます。

座長：1回目の議論に戻って来た感じでもありますね。

津谷委員：本当に一市民としての感想です。旧鷹巣に住んでいますが、日中の人通りがほとんどありません。土日は仕事の車もあまり走りませんので、年がら年中土日は歩行者天国のような状況で人がいません。せめて若い人がたむろして欲しいと思いますが、何もありません。おばあちゃんは品ぞろえが欲しくてもショッピングモールまで行くのが

大変です。まちなかに欲しいと思っても、私たちがこれまでショッピングモールで買い物に行った責任もありますが、まちなかで揃えられるものもありません。県や市の補助金をもらって一時的に何か売のお店はできますが、通る人もいなくて、買う人もいなくて補助金が終わるとお店も終わってしまう状況です。若い人にまちなかをウロウロして欲しいというのが切実です。

座長：これまでの10年とこれからの10年は異なってくると思います。若い人の雇用創出、1回目の原点に戻るとのことかと思えます。

奥田委員：私は芸術文化協会から参加していますので、それにあたりまして、市民が元気で楽しく生きるためには、一人が一芸として趣味を持ってほしいと思います。子供や孫にもつなげる、見せることによって人とのつながりも出てくると思います。その意味で一人一つの趣味を持つことが大事だと思います。なので、できれば補助金をよろしくお願い致します。

また、補助金ですが、内陸線の乗車数も減って大変だと思いますが、行政の方では中学生の通学を電車をやめてバスにしています。やむをえずそういう結果だと思いますが、かけるべきところにお金をかけないと全てが沈んでいってしまうのではないのでしょうか。大変な中でも守っていかなければいけないものもありますので、大変なことはわかりますが、人を元気で長生きさせるための補助も少し考えてほしいと思います。

相場委員：市民提言版の1ページ目を見ていて少し感じたことをお話したい。農業畜産業の振興で北秋田市のブランド化について記載されています。また、観光レクリエーションについても記載されています。ブランドとしてはモノに対するものだけではなく、観光という視点からもあると思います。観光からすると森吉山が最大のブランドだと思います。何度も登ったりしていますが、田沢湖・角館・十和田八幡平に引けをとらないと思います。二次アクセスや宿泊の問題で苦戦していると思いますが、まずは森吉山というものを北秋田市のブランドとして考えてみてはどうかと思います。

座長：以上で、策定についての会議の議論を閉じることと致します。

皆様には6月24日から長期にわたり、資料検討、議論を色々と有難うございました。議論が色々と出ましたが、今後の北秋田市の施策の展開には注目していきたいと思いますので、引き続きよろしくお願い致します。それで私の議事進行の任を終えさせて頂きます。皆様ご協力頂き、有難うございました。

事務局：ほぼ4か月の長い間ご議論を頂き、有難うございました。また、濱田座長には色々な分野からの検討を頂きまして有難うございます。

北秋田市総合戦略は皆様からの議論を踏まえまして今月中に策定を予定されております。既に総合戦略で掲載されている事業に加えまして、未実施の事業についても、準備が整い次第、目標達成に向けて実行に移すこととしています。

先ほども座長からありました通り、この計画は作ることが目的ではございませんで、目標を達成することを目指しております。今後とも目配りやご協力をよろしくお願い

致しました。それでは、これを持ちまして第4回総合戦略会議を終了致します。改めまして長い間、ご協力を有難うございました。

以上